

鯖江市デジタル田園都市構想総合戦略 (概要版)



世界的視野で考え、地域で行動する
「めがねのまちさばえ」

2024年度～2028年度



策定の目的

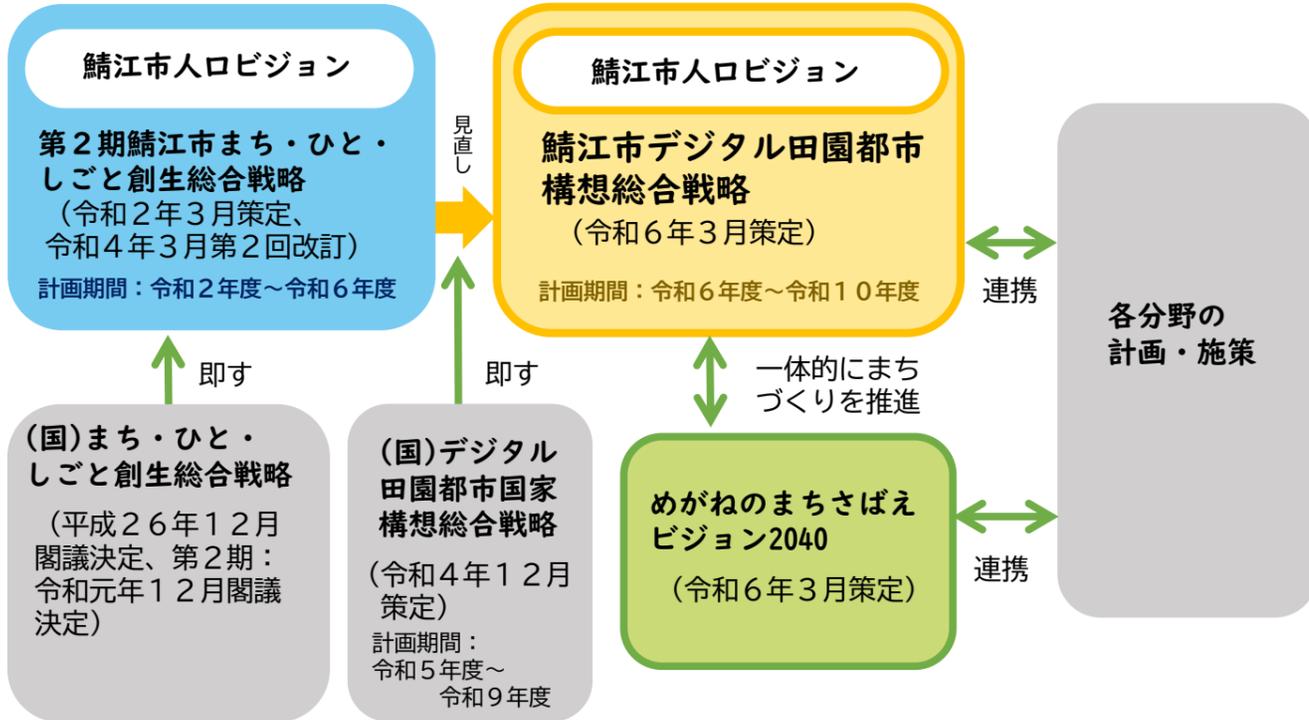
- ①人口の減少をゆるやかにする
- ②少子高齢化社会に的確に対応する
- ③鯖江市のもつ魅力を最大限に活用し、活気あふれる地域社会をつくる
- ④これらを実現するために、デジタルの力を最大限に活用する

「鯖江市デジタル田園都市構想総合戦略」では①～③を実現するために「しごと」「ひと（社会増減）」「ひと（自然増減）」「魅力的なまち」の4つの観点から4つの基本目標を定め、それぞれの分野でデジタルの力でできることを考えながら、すべての市民の「幸福寿命（どのような状況であっても幸せだと感じられる状態）」の延伸を目指します。

計画の位置付け

- ①対象期間は、2024年度から2028年度（令和6年度から令和10年度）までの5年間
- ②国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に基づく地方版総合戦略として策定
- ③人口ビジョンと総合戦略をひとつのものとして策定
- ④「めがねのまちさばえビジョン2040」と一体的に推進
- ⑤各分野の計画・施策と連携

各種計画との関係は下図のようになります。



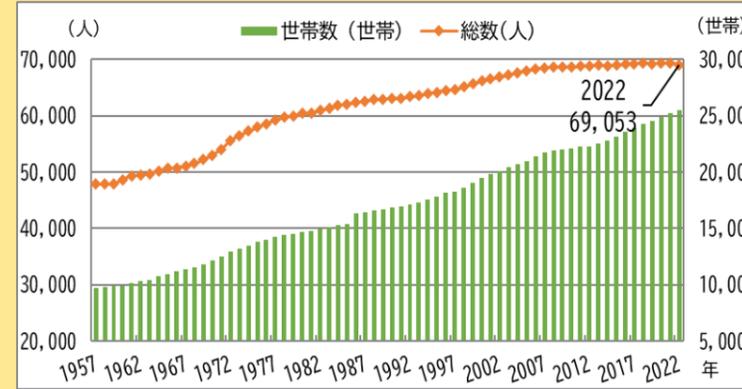
？

人口ビジョンからわかることは？

「人口ビジョン」とは、鯖江市の人口の現状を分析し、将来の展望を提示するものです。

鯖江市では、順調に人口増加が続いてきましたが、2007年（平成19年）以降から横ばい傾向となり、2022年（令和4年）は前年に比べて約300人の減少となっています。（図1）

（図1）



▶出生数・死亡数の大小による「自然増減」を分析すると、出生数は1999年（平成11年）をピークに減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、「自然減」の状態です。

▶転入数・転出数の大小による「社会増減」を分析すると、転入数・転出数ともに増加傾向ですが、転出数の増加が大きく、2022年（令和4年）に、これまでの「転入超過」から「転出超過」へと逆転しました。

▶過去5年間の年齢別に転入元、転出先の状況を分析すると、5年前と比較して、男性の17歳から23歳にかけての県外への転出数、24歳から30歳にかけての県内への転出数、女性の21歳の県外への転出数が伸びていることがわかりました。

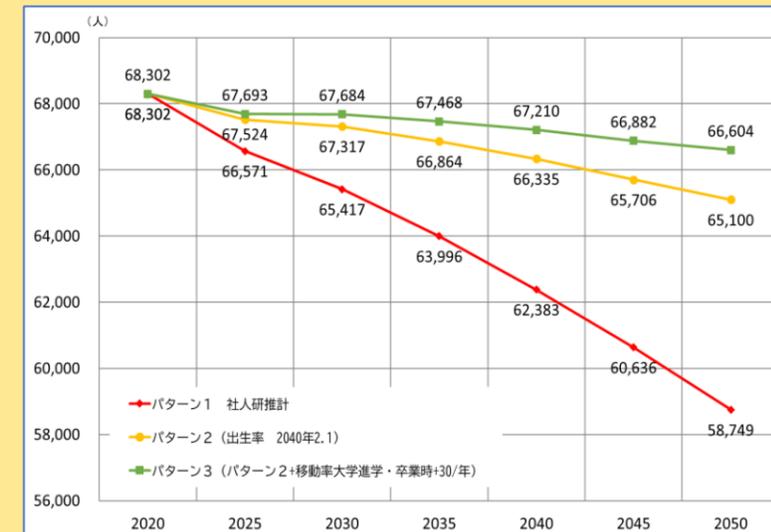
▶国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推計によると、2050年の鯖江市の人口は、58,749人まで減少することが予測されています。

▶自然増減の面からは、将来の人口減少を抑制するために、合計特殊出生率を長期的に人口を維持することができる水準（2.07：人口置換水準）まで向上させる必要があります。

▶社会増減の面からは、現状分析から、進学、就職に加え、結婚、子育て、住宅取得を契機とする転出増加が推測されるため、U・Iターンの促進および子育て施策や住宅施策と連携した定住施策を研究・検討していく必要があります。

▶今回の人口ビジョンでは、2040年に合計特殊出生率2.07を目指すとともに、生産年齢人口である15～64歳の人口を社人研の推計値より毎年30人増加させることを目指します。

（図2）



▶合計特殊出生率の目標を達成した場合、2050年の鯖江市の人口は、65,100人（社人研の推計より6,351人増）となることを見込まれます。（図2 パターン2）

▶加えて、U・Iターン等による社会増の目標を達成した場合、2050年の鯖江市の人口は、66,604人（社人研の推計より7,855人増）となることを見込まれます。（図2 パターン3）

世界的視野で考え、地域で行動する「めがねのまちさばえ」

22の基本施策、それに連なる84の実施施策で 基本目標の実現を目指します！



基本コンセプトに込めた思いは？

本総合戦略の基本コンセプトで使われる「めがね」という言葉は、眼鏡産業だけを指すものではなく、繊維や漆器、農業などの「ものづくり」はもとより、これらの産業を支えてきた女性の活躍や、歴史、伝統、文化、自然、環境、市民性など鯖江市固有の地域資源のすべてを象徴するものです。

「めがねのまちさばえ」の知名度が大きく向上した今、先人たちによって脈々と受け継がれ、これまで鯖江市を形づくってきたこれらの地域資源にさらに磨きをかけ、自信をもって世界に発信するとともに、SDGsの達成や、ゼロカーボンシティの実現、ダイバーシティの推進など、世界的視野で物事を考え、それを、この鯖江の地で行動に移していくことが大切です。「世界的視野で考え、地域で行動する」ことで、多様な人々が集まり、経済、社会、環境の好循環が生まれ、停滞することなく、常に新しいものが生まれ続けるそんな持続可能なまちを創り上げていくことを目指します。

「さばえる」ってどういう意味？

『鯖江市デジタル田園都市構想総合戦略』では、人口減少社会に的確に対応し、活力ある鯖江市であり続けるため、「さばえる」という言葉をキーワードに4つの基本目標を掲げています。

「さばえる」は「栄える」「得る」「支える」「エールを送る」「映える」「えらばれる」などの意味をかけたあわせ造語です。

ものづくりのまちとして「栄え」、さばえファンを「得て」関係人口、交流人口を増やし、みんなの幸せのために「支え合い」互いにエールを送り、住みたいまちに住み続けたいまちとして、「えらばれる」まちとなるように、

「鯖江らしさ」を磨き、行動していこう！
という強い思いを込めた言葉です。

- 栄える
- 映える
- 得る
- 支える
- エールを送る
- えらばれる



デジタルの力を活用した課題解決
体制・組織強化の取組

鯖江市で進める特徴的な取組の例

基本目標Ⅰ



新産業の創造

眼鏡のチタン加工技術を活かした医療機器の開発や、ウェアラブル端末関連等の成長分野への進出など、市内リーダー企業を取り組む新技術開発を支援しています。



チームさばえ出展事業

市内企業群による「チームさばえ」共同ブースを、東京・大阪で開催する国内見本市に出展し、参加企業の販路拡大や「めがねのまちさばえ」のブランド力向上を目指します。



越前鯖江デザインスクール

越前市と連携し、持続可能な地場産業の確立を目的に、デザイン思考を活かした経営マインドの醸成や課題解決を図るスクールを開講しています。

基本目標Ⅱ



SDGs部・SDGsフェス

SDGs推進センターを拠点に若者たちがSDGsを学び行動するSDGs部の活動を支援します。また全世代参加型のイベントSDGsフェスの開催を通して鯖江市の取組を世界に発信していきます。



鯖江市地域活性化プランコンテスト

全国の大学生と地元の高校生による若者目線でのアイデアを活かしたまちづくり提案のコンテストを行い、地域と連携しながら、まちづくりを楽しむ企画や活動に取り組んでいます。



地域ブランド推進事業

「つくる、さばえ」を合言葉に、パネル討論やワークショップなどを行い、鯖江市の魅力を共有し、未来へ向けた行動を促すことで、地域ブランド力を向上し、「選ばれるまち」となることを目指しています。

基本目標Ⅲ



子育てサポーター養成講座

子育てサポーター養成講座を実施し、修了生が子育てサポーター(COSAPO)として、子育て支援センターと協働しながら、地域ぐるみで子育て中の親子の見守りやサポートを行っています。



クリエイティブ教育都市事業

官民協働で、小学校の授業やクラブ活動において、プログラミング教育を実施し、将来のICT社会を支える人材を育成しています。



高年大学

高齢者が、歴史、文化、健康づくり等の講座やクラブ活動に参加し、生涯学習を通して、仲間づくりの輪を広げるとともに、大学での学びを地域のまちづくり活動に活かすなどの社会貢献活動を行っています。

基本目標Ⅳ



書かない窓口

市民の住所異動等に係る申請書を書く手間を極力省き、申請にかかる負担軽減や受付時間を短縮して市民サービスの向上を図っています。



西山公園夜間景観造成事業

西山公園のナイト観光の促進を目的に、西山公園前の歩道や、園内の噴水広場ビクニック広場、南側大階段などにイルミネーションを設置しています。



地域防災力育成セミナー

地域の防災力を高めるため、防災に関する講座を小中学校や地域で開催し、避難所開設の際のパーティションや簡易ベッドの組み立て方、多様な人への配慮などを、様々な視点で伝えています。

！ KPI（評価指標）とデジタルによる課題解決の例



「鯖江市デジタル田園都市構想総合戦略」では、基本施策の達成状況を評価するために、成果指標を設定しています。また、基本施策ごとにデジタルの力を活用し、社会課題を解決することを推進しています。ここでは、そのいくつかの例を紹介します。

主なKPI（成果指標）

基本目標Ⅰ 稼ぐ地域、魅力ある仕事をつくる

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
市内の従業者数を増やします	人	30,212	31,000
成長分野の海外販路開拓件数を増やします	件 (累計)	13	23
販路開拓のための企業間のマッチングを進めます	件 (累計)	113	230
企業立地のための交付金の決定件数を増やします	件 (累計)	13	30
職場で男女平等と感じる人の割合を増やします	%	47.1	70.0
新たに農業に従事する人を増やします	人 (累計)	21	26

基本目標Ⅱ ひとが集い、挑戦できるまちをつくる

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
社会減を推計値よりも抑制します	人	-	+150
市内高等学校等への伴走支援の件数を増やします	件	-	4
関係人口（市外在住で鯖江市に多様に関わる人）の数を増やします	人 (累計)	11,788	12,500
河和田地区の若者移住・就業者数を増やします	人 (累計)	85	120
各地区のまちづくり計画策定を推進します	地区 (累計)	1	3
年間観光客数を増やします	万人	155	200
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合を維持します	%	小学生 82.4 中学生 62.9	小学生 82.0 中学生 62.0
地域ブランド力の向上の施策に満足している人の割合を他の施策の平均以上とします。	%	-	75.0

基本目標Ⅲ 育てやすい、暮らしやすいまちをつくる

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
自然減を推計値よりも抑制します	人	-	+300
子育てに満足している人の割合を増やします	%	74.5	80.0
働きやすい就業規則に改定する企業を増やします	件	16	30
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合を増やします	%	小学生 92.4 中学生 86.3	小学生 93.0 中学生 88.0
元気生活率の減少を抑制します	%	84.4	83.0
地域見守り体制の整備町内数を増やします	町内	128	140

基本目標Ⅳ 安心して快適で魅力的なまちをつくる

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
快適に暮らせると感じる人の割合を増やします	%	81.5	87.5
オンライン申請が可能な手続きの割合を増やします	%	27.0	60.0
西山公園の来園者数を増やします	万人	81.1	100.0
つつじバスの年間利用者数を増やします	万人	14.4	15.0
特定空き家の解消率を増加させます	%	22.5	50.0
CO2排出量を減少させます	t	501,000	357,780

実現に向けて 体制・組織強化

KPI（成果指標）	単位	現状値	目標値
職員の能力態度評価点数（40点満点）をあげます	点	一般職 29.9 現業職 27.3	一般職 32.0 現業職 30.0
財政調整基金の年度末残高を堅持します	百万円	3,609	3,000
財政を健全な状態に保ちます（実質公債費比率）	%	5.3	9.0
財政を健全な状態に保ちます（将来負担比率）	-	将来負担なし	将来負担なし
財政を健全な状態に保ちます（実質赤字比率）	-	黒字	黒字
財政を健全な状態に保ちます（連結実質赤字比率）	-	黒字	黒字
市債残高について目標値を超えないようにします	百万円	13,012	21,000
市税の徴収率をあげます	%	98.6	99.0

デジタルの力でできること



基本目標Ⅰ

- ・システム導入支援による生産性の向上
- ・ECサイトの構築支援やデジタル展示会支援等による販路拡大
- ・リモートワーク支援によるワーク・ライフ・バランスの推進
- ・人材マッチングサイトによる人材と市内事業者のマッチング
- ・スマート農業の導入による農作業の効率化



基本目標Ⅱ

- ・SNSを活用した移住等情報の発信
- ・電子回覧板アプリによる区長事務軽減、伝達ネットワークの強化
- ・人流データを活用した観光プロモーションの実施
- ・歴史や文化資源のデジタルデータ化によるAR、VRコンテンツの開発、発信
- ・インフルエンサーと協働した魅力発信や情報拡散



基本目標Ⅲ

- ・マッチングシステムを活用した男女の出会いの場の創出
- ・AIドリルや学習支援アプリを活用した個別最適な学びの場の提供
- ・スマートロックの活用による解放学校の利便性の向上
- ・国保データベースの健診・医療・介護連携データを活用した効果的な健康増進のアプローチの実施



基本目標Ⅳ

- ・電子申請の整備による24時間いつでもどこでも申請手続きができる環境づくり
- ・オープンデータの活用による市の情報の見える化
- ・SNSや動画チャンネルを活用したわかりやすい市政情報の発信
- ・MaaSによる公共交通サービスの向上
- ・WEBカメラの活用による河川水位情報等のリアルタイム公開